

こたえ ハーメルンの笛ふき

じゅけんいりぐち
受験入口 ②

ハーメルンの笛ふき

(ドイツの言い伝え)

昔、ハーメルンという町は、ねずみが多くて、こまっっていました。

ある日、はでな服の男があらわれて言いました。「お金をはらってくれるなら、ねずみをたいじしてみせましょう。」

町の人たちがやくそくすると、男は笛をふきながら町を歩きました。すると、ねずみたちが家から出てきて、男の後について行き、川に入っていなくなりました。

ところが、町の人たちは、やくそくのお金をはらいませんでした。

男は、もう一度笛をふきました。こんどは、町じゅうの子どもたちが男の後について行き、二度ともどってきませんでした。

町には、子どものいない、しずかな通りだけがのこりました。

1 ハーメルンの町は、何が多くてこまっっていましたか。

ね
ず
み

2 ねずみたちがいなくなったのは、どうしてですか。

男の笛を聞いて、後について行き、川に入ったから。

3 町の人たちは、男とのやくそくをどうしましたか。

ア まもった。

イ まもらなかった。

ウ わすれていた。

4 男が、もう一度笛をふいたのはどうしてだと思いますか。

町の人たちが、やくそくをまもらなかったから。

5 この話から分かることに合うものに、○をつけましょう。

ア やくそくをやぶると、大きなものをうしなうことがある。

イ 笛をふけば、何でもできる。

ウ ねずみは、音楽がすきだ。